

自主防災組織の組織化・活動を支援します

いざというときのための防災活動を行う自主防災組織を立ち上げる、または自主防災活動を行う町内会は、補助金が利用できます。

補助金対象事業

●防災資機材整備事業

自主防災組織がその活動に必要な防災資機材を整備する事業

- ①組織準備用資機材 - ヘルメット、スコップ、ロープ、土のう袋、携帯消火器など
- ②情報伝達・収集用資機材 - ラジオ、メガホン、トランシーバー、ラジオ受信アンテナなど
- ③その他 - ストープ、カセットコンロなど

●地域防災活動事業

自主防災組織が行う訓練、啓発、研修活動

- ④訓練活動 - 防災訓練の実施など
- ⑤啓発活動 - パンフレットの印刷、資材購入など
- ⑥研修活動 - 防災知識の向上のための研修会の開催や参加

●支援額

- ①～④ 経費の3分の2
- ⑤ 経費の3分の2(一部全額)
- ⑥ 経費の全額



●申請について

申請は1組織につき、各事業ごとに年度内に1回とします。

申し込み・問い合わせ

総務部防災担当(名寄庁舎3階)

☎01654③2111(内線3382)

停電情報をLINEで収集できます

ほくでんネットワークとLINEで友だち登録すると、停電情報が入手できます。

地震や台風、大雪などによる停電で、日常生活に支障が出ることも想定されますが、友だち登録をしておくことで、停電の「発生」と「解消」などの情報が配信されます。

大規模災害時などで正確な情報を入手するために、名寄市LINE公式アカウントと一緒に友だち登録を推奨します。

エリア登録をするための友だち追加はこちら!

<問い合わせ先>

北海道電力ネットワーク
名寄ネットワークセンター
お客さまサービス課

☎0120-060-167

(平日: 9時~17時)

※音声ガイダンスが流れますので「5」を選択してください。

チャットはこちら!

COLUMN*

|VOL.57|

なよろっぽい家づくりの会



再生可能エネルギー④

今回は、バイオマスエネルギーについて、わかる範囲でお話したいと思います。

バイオマスは、化石燃料を含めない生物由来の再生可能資源のことです。現在、王子マテリアの製紙工場が建物だけを残している状況ですが、いずれ跡地に木質バイオマス発電所が建設されるという計画があり、これから徐々に進んで行くものと思いますが、ここではその有効性についてお伝えします。実は木質バイオマス発電だけ再生エネルギーの中で炭素(カーボン)を含んでいます。世界中で『ゼロ・カーボン』が叫ばれる中、なぜこの発電はいいのでしょうか?それは、森を伐採し、そこで燃やした木材を燃やして、それをエネルギーとしていくわけですが、燃焼により発生する二酸化炭素(CO₂)は、今までその木材が光合成により吸収したものであるため、実質の総量は変わりません。また、再び苗木を植林していくことで、さらに二酸化炭素の増加を抑え、かつ化石燃料の使用を減らす事に繋がり、温暖化対策に貢献しているという考えです。そのほか、バイオマス発電は牧草や家畜糞尿・生ごみなどを発酵させてガスを作ることができるものもあり、発電方法は大きく3つあります。

①「直接燃焼方式」

木材などを燃やして水蒸気を作り、タービンを回し発電するが、作り出せる温度が低いので大型の設備が必要となる。また、安定供給が難しい。

②「熱分解ガス化方式」

木材を蒸し焼き状態にして炭を作る。そのとき可燃性の「熱分解ガス」が発生、そのガスを燃やしてタービンを回す。燃焼温度が高く直接方式より規模の小さい発電所を作る事ができる。

③「生物化学的ガス化方式」

下水の汚泥、牧草、家畜の糞尿を発酵、メタンガスを発生させ、それを燃やしてタービンを回す。これは水分が多く燃えにくいバイオマスでも活用でき、廃棄物の有効利用もでき、発熱量が高く効率が良いのが特徴。

臭いもので発電なんて凄い事ですね。既に北海道別海町でも運用され、注目を集めているようです。

■問い合わせ なよろっぽい家づくりの会事務局

(NPO法人なよろ観光まちづくり協会内)

☎01654⑨6711